

(再評価)

おび ひろ ひろ お
帯広・広尾自動車道
(一般国道236号)

たい き ひろ お ちゅう るい たい き とよ に
大樹広尾道路(忠類大樹～豊似)

再評価原案準備書説明資料

令和2年度
北海道開発局

目 次

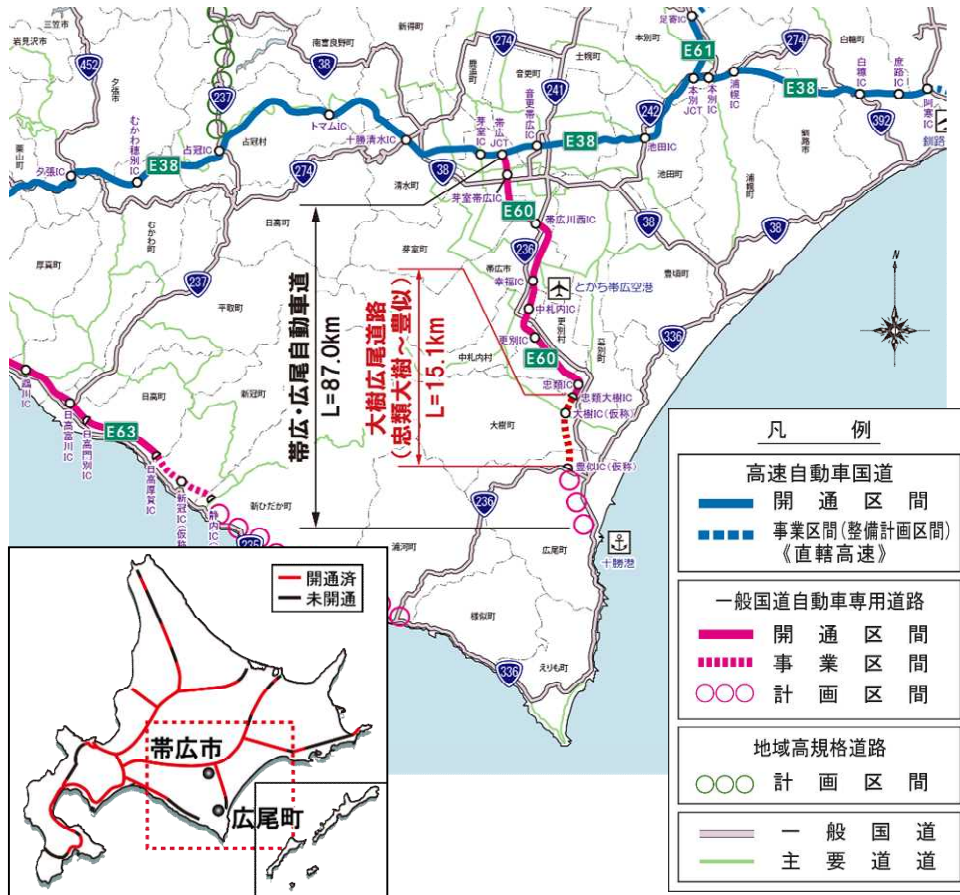
1.事業の概要	3
2.事業の必要性等	5
(1)事業を巡る社会情勢等の変化		
(2)事業の整備効果		
(3)事業の投資効果		
3.事業進捗の見込み	16
4.関係する地方公共団体等の意見	17
5.対応方針(案)	18

1.事業の概要

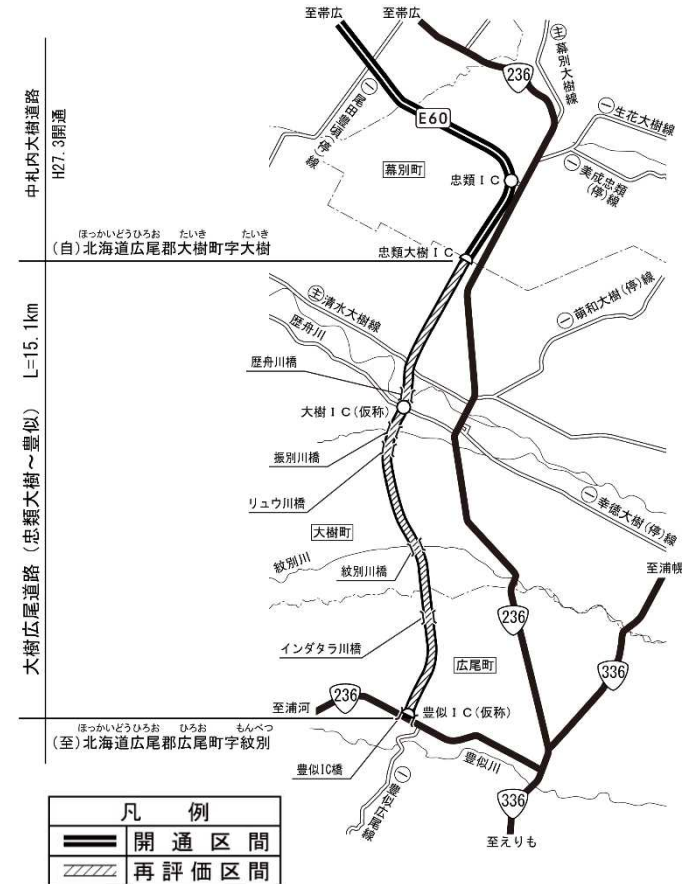
(1)事業の目的

- ・帯広・広尾自動車道は、芽室町を起点とし、広尾町に至る延長約87kmの自動車専用道路。
- ・大樹広尾道路(忠類大樹～豊似)は、高速ネットワークの拡充による近隣都市間の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び重要港湾十勝港等への物流効率化等の支援を目的とした、忠類大樹インターチェンジから豊似インターチェンジ(仮称)に至る延長15.1kmの事業。

■位置図



■事業概要図

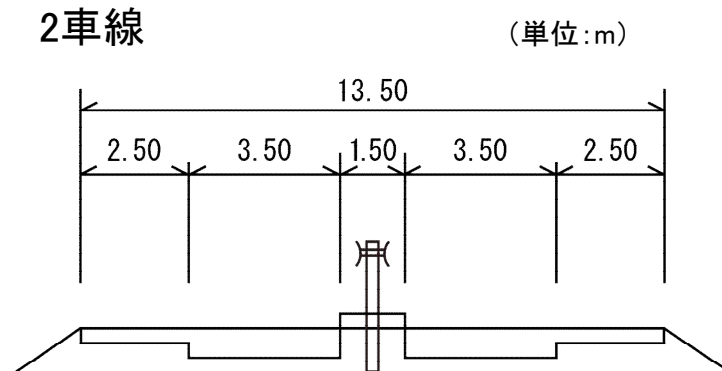


1.事業の概要

(2)計画の概要

- ①起点 …… 北海道ほっかいどう広尾郡ひろお大樹町たいき字大樹たいき
- 終点 …… 北海道ほっかいどう広尾郡ひろお広尾町ひろお字紋別もんべつ
- ②計画延長 …… 15.1km
- ③幅員 …… 13.5m
- ④構造規格 …… 1種3級
- ⑤設計速度 …… 80km/h
- ⑥車線 …… 2車線
- ⑦事業主体 …… 北海道開発局

■横断面



(3)経緯

- 平成28年度 事業化
- 平成30年度 用地補償着手、工事着手
- 令和 2年度 事業再評価
- 事業進捗率11%

※事業進捗率はR2年3月末時点

2.事業の必要性等

(1)事業を巡る社会情勢等の変化

[高速交通ネットワークの整備状況]

- ・平成15年 3月 帯広・広尾自動車道
帯広JCT～帯広川西IC開通
- ・平成18年 3月 帯広・広尾自動車道
帯広川西IC～幸福IC開通
- ・平成20年11月 帯広・広尾自動車道
幸福IC～中札内IC開通
- ・平成25年 3月 帯広・広尾自動車道
中札内IC～更別IC開通
- ・平成27年 3月 帯広・広尾自動車道
更別IC～忠類大樹IC開通
- ・平成30年 4月 日高自動車道
日高門別IC～日高厚賀IC開通
- ・平成31年 3月 北海道横断自動車道根室線
(トマムIC～十勝清水IC)
4車線化等事業許可
- ・令和 2年 3月 北海道横断自動車道根室線
(占冠IC～トマムIC)
4車線化事業許可

[その他]

- ・令和 9年度 十勝港内港地区国際物流ターミナル整備完了予定



帯広・広尾自動車道
平成15年3月 帯広JCT～帯広川西IC開通
平成18年3月 帯広川西IC～幸福IC開通
平成20年11月 幸福IC～中札内IC開通
平成25年3月 中札内IC～更別IC開通
平成27年3月 更別IC～忠類大樹IC開通

写真: 帯広開発建設部
※中札内IC～更別IC

2.事業の必要性等

(2)事業の整備効果

○重要港湾十勝港の利便性向上

・生産地と十勝港の連携が強化され、物流の効率化・利便性向上が期待される。

○道路交通の安全性向上

・並行現道区間からの交通転換が見込まれ、隣接区間同様に死傷事故が減少するなど、道路交通の安全性向上が期待される。

○救急搬送・地域医療の安定性向上

・救急搬送や通院時間が短縮し、救急医療の速達性や地域医療の安定性向上が期待される。

○宅配サービスの効率化・日常生活の利便性向上

・帯広市との所要時間が短縮し帯広市への1時間カバークロスを増加、また、宅配の契約世帯数の急増に適切に対応する配送体制の効率化と住民生活の利便性向上が期待される。

○観光地への移動利便性向上

・移動時間の短縮が図られることで観光の周遊性が向上し、増加傾向にある日帰り観光を支援するなど、観光の活性化が期待される。

2.事業の必要性等

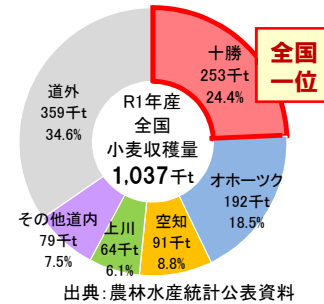
(2)事業の整備効果(重要港湾十勝港の利便性向上)

- ・重要港湾十勝港は農産品出荷、飼料原料等の輸移入等、地域の基幹産業を支える重要拠点であり、全国一の収穫量を誇る十勝産の小麦は十勝港を經由し全国に出荷。また北海道の肉牛も全国一のシェアを誇り、うち十勝地域はブランド肉牛登録数が多い。十勝港に輸移入される配合飼料原料の取扱量は、民間投資を契機に増加しているため、各地の農場への輸送利便性向上が課題。
- ・当該道路の整備により、生産地と十勝港の連携が強化され、物流の効率化・利便性向上が期待される。

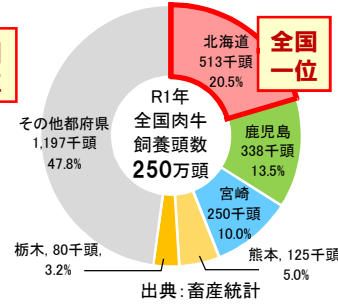
【十勝港～十勝地域の小麦・飼料物流状況】



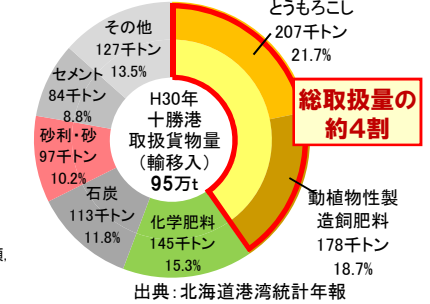
【小麦の収穫量全国シェア】



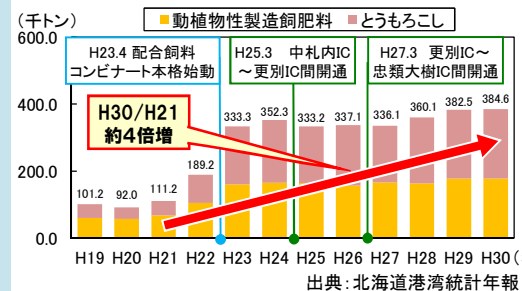
【肉牛の全国シェア】



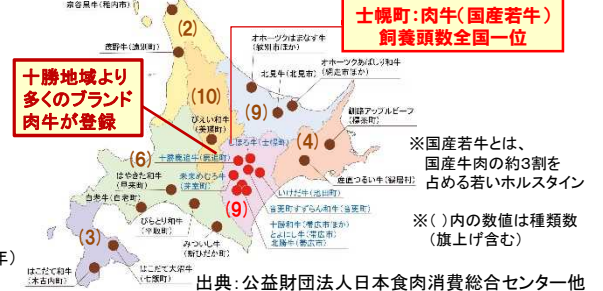
【十勝港の品目別輸移入量割合】



【十勝港における配合飼料輸移入量推移】



【全道のブランド肉牛登録数】



■地域の声 (R2.7 小麦保管業者職員)

・十勝全域から十勝港の巨大なサイロに、大量の小麦をほぼ年間を通して搬入しています。近年、効率性向上のため車両の大型化が進んでおり、より円滑かつ安全な輸送が課題となっています。高規格道路の利用区間が長くなるほどスケジュール通りの作業が可能となり、小麦の安定輸送のみならずサイロ現場での作業の効率性が高まります。

■地域の声 (R2.8 飼料製造業者職員)

・飼料の輸移入量は増加傾向にあり、円滑な輸送は弊社の最重要課題であり、豊似ICまで開通するとさらに各農場への輸送の利便性が高まります。

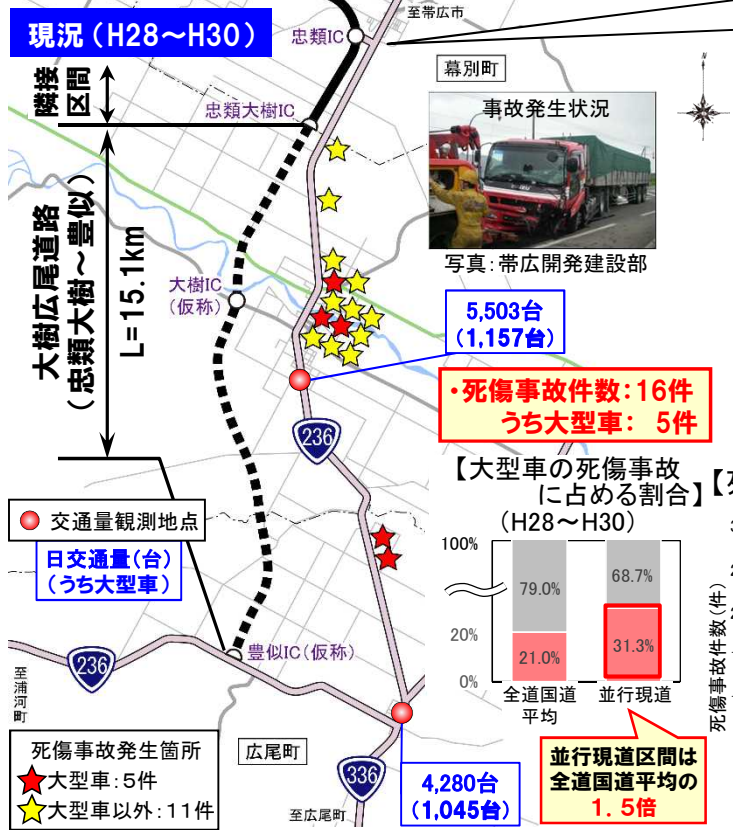
2.事業の必要性等

(2)事業の整備効果(道路交通の安全性向上)

- ・並行現道区間は、重要港湾十勝港への物流上の基幹ルート。H28～H30年に発生した16件の死傷事故のうち大型車は5件で、死傷事故に占める大型車比率は全道平均を大きく上回っており、特に大型車の安全性向上が課題。
- ・一方、隣接する供用区間の中札内IC～忠類大樹IC間では、開通後に死傷事故が2件(うち大型車は1件)になるなど事故が大きく減少していることから、当該道路の整備により、並行現道区間からの交通転換が見込まれ、隣接区間同様に死傷事故が減少するなど、道路交通の安全性向上が期待される。

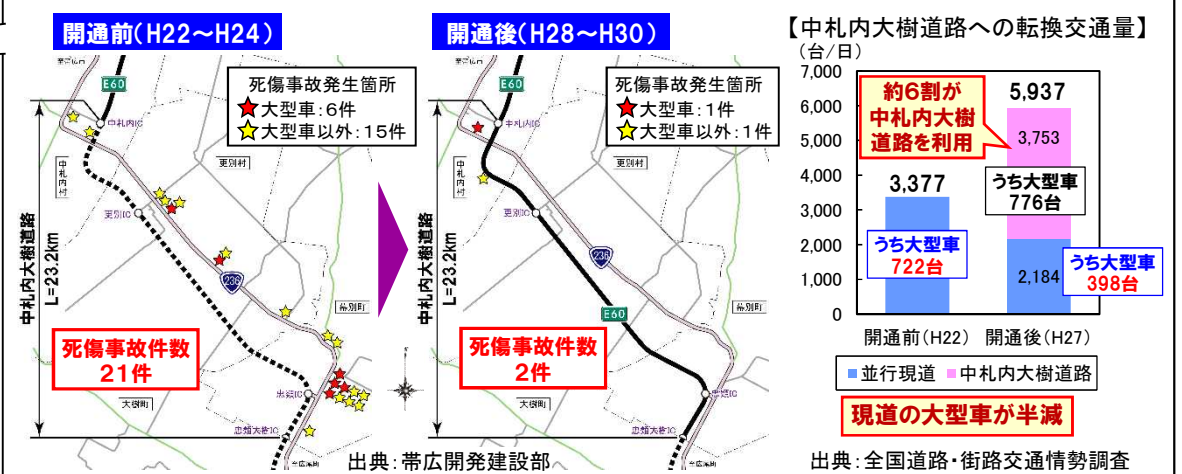
【当該事業区間及び隣接区間における死傷事故発生状況】

＜当該区間：大樹広尾道路(忠類大樹IC～豊似IC)＞



出典: 帯広開発建設部、H27全国道路・街路交通情勢調査

＜隣接区間：中札内大樹道路(中札内IC～忠類大樹IC)＞



出典: 全国道路・街路交通情勢調査

■地域の声 (R2.8 運送会社職員)

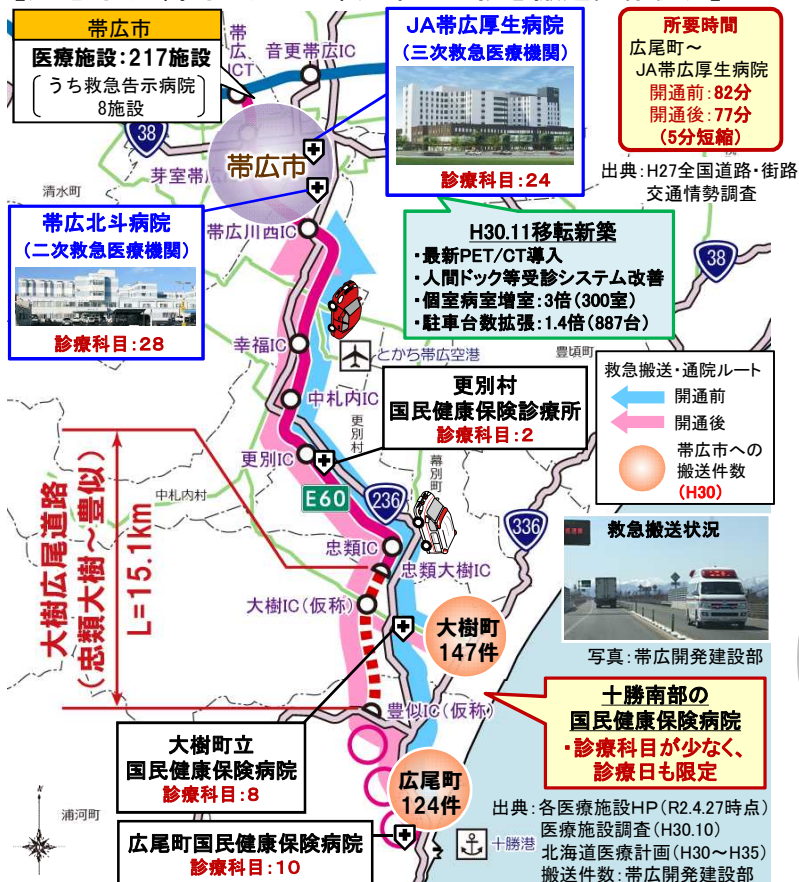
- ・弊社は主にトレーラー等の大型車で十勝の農産物を運んでいます。高規格道路利用時はもとより、国道を利用する場合も交通量が減ったため、円滑快適にかつ安全に走ることができるようになったと実感しています。
- ・大型トラックは、冬期間にスリップした場合、車体の制御が非常に難しく重大事故につながります。そのため、年間を通して事故の少ない高規格道路を積極的に利用することになっています。

2.事業の必要性等

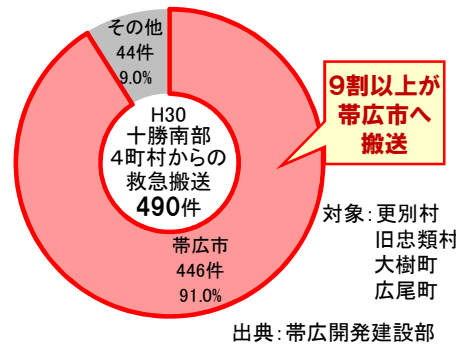
(2)事業の整備効果(救急搬送・地域医療の安定性向上)

- ・十勝南部地域の救急搬送は、高次医療施設が集積する帯広市への依存度が高く、搬送件数も近年増加傾向にあるため、救急搬送の速達性及び安定性の向上が急務。
- ・日常の通院においても、多様な診療科目を有する帯広市の医療機関への通院が必要で、通院・移動が負担。
- ・当該道路の整備により、救急搬送や通院時間が短縮し、救急医療の速達性や地域医療の安定性向上が期待される。

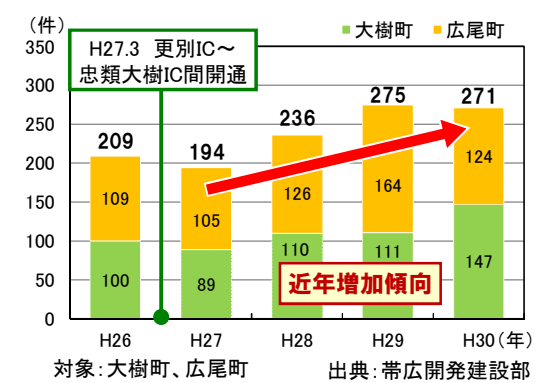
【広尾町・大樹町における帯広市への救急搬送依存状況】



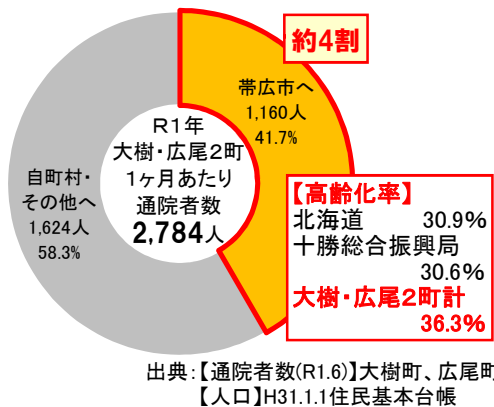
【十勝南部4町村の自町村外救急搬送における帯広市への依存度】



【大樹・広尾2町から帯広市への搬送件数】



【大樹・広尾2町から帯広市への通院者数(1カ月あたり)】



■地域の声 (R2.7 大樹消防署職員)

- ・延伸に伴い厚生病院など帯広市内に直接搬送するケースが大幅に増えています。
- ・帯広市への搬送では、振動やカーブが少なく患者への処置が行いやすいため、通行止めが無い限り高規格道路を走行しています。
- ・豊似IC開通により、さらに搬送時間が短縮されるなど、救急搬送におけるメリットが高まります。

■地域の声 (R2.8 広尾町役場職員)

- ・住民の通院のうち4割以上が遠く帯広市に通院しており、大きな負担となっています。
- ・高規格道路が延伸すると、帯広市への通院において住民の心理的・肉体的負担が軽減し、通院の利便性が大きく向上します。

2.事業の必要性等

(2)事業の整備効果(宅配サービスの効率化・日常生活の利便性向上)

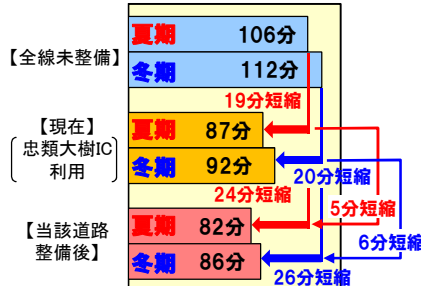
- ・大樹町及び広尾町では、住民の日常生活を飲食店や商業施設、社会福祉施設等の都市機能が集積する帯広市に大きく依存。大手小売事業者では、地域住民の生活利便性向上に資するため日用品や飲食料品の宅配事業を展開しており、サービス向上に向けた円滑で効率的な事業展開が課題。
- ・当該道路の整備により、帯広市との所要時間が短縮し帯広市への1時間カバー圏人口が増加、また、宅配の契約世帯数の急増に適切に対応する配送体制の効率化と住民生活の利便性向上が期待される。

【十勝南部地域から帯広市への1時間カバー圏】



出典: 住民基本台帳、公共施設状況調、学校基本調査、医療施設調査、社会福祉施設調査、全国大型小売店総覧、経済センサス、帯広開発建設部

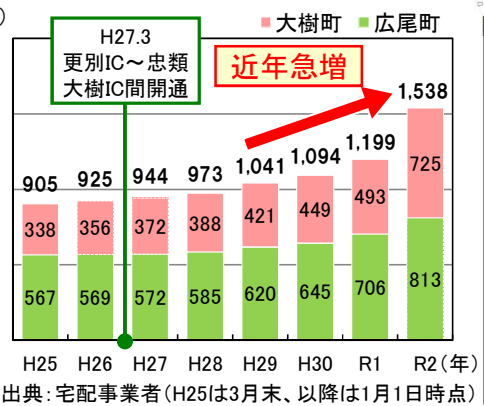
【広尾町~帯広市間の所要時間の変化】



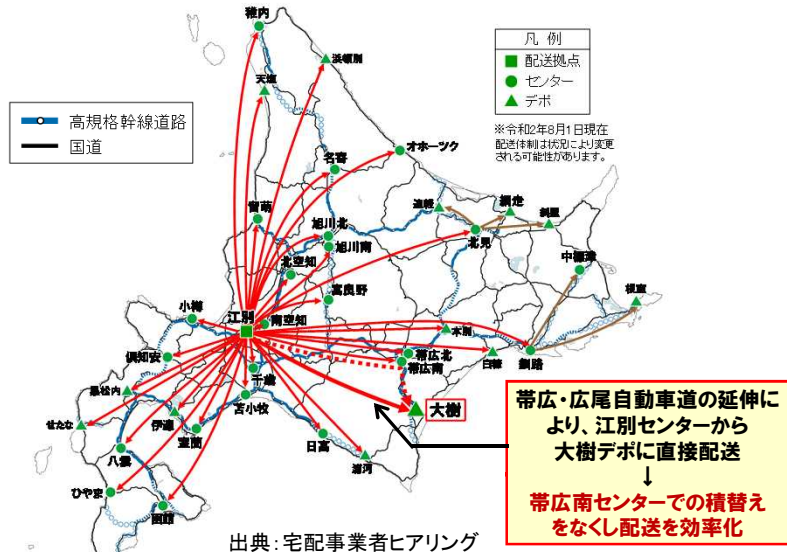
※所要時間算出の条件
・忠類大樹IC~豊似IC(仮)間の旅行速度は、80km/h(夏期)、76.7km/h(冬期)と設定
平成29年度~令和元年度のETC2.0プローブデータより冬期と夏期の平均旅行速度を算出し低減率0.958とした。

出典: H27全国道路・街路交通情勢調査

【宅配契約世帯数の推移】



【全道の宅配事業における商品配送】



■地域の声 (R2.8 宅配事業者社員)

- ・高規格道路の延伸に伴い、1配送あたりの配達軒数の増加や1軒あたりの滞留時間の増加、配達時刻の早まりなど顧客サービスの向上を図ることによりお客様からの評価が高まりました。
- ・契約件数の増加に対応するため、平成30年に大樹町に新たに配送拠点を新設し、商品発注の効率化など顧客サービス向上と効率的な事業運営が可能になりました。
- ・さらに今年6月より、江別センターから直接大樹デポに商品を生供給する配送体制とするなど、高規格道路を最大限活用しています。

2.事業の必要性等

(2)事業の整備効果(観光地への移動利便性向上)

- ・帯広・広尾自動車道周辺には、道の駅をはじめ植物園や文化施設、サンタランドがある大丸山森林公園などの観光施設が点在し、観光周遊バスツアーも催行されているが、観光拠点の帯広市から遠距離にあって長時間を要するため立寄り地が限定されており、移動の速達性・円滑性の向上が課題。
- ・当該道路の整備により、移動時間の短縮が図られることで観光の周遊性が向上し、増加傾向にある日帰り観光を支援するなど、観光の活性化が期待される。

【十勝南部を巡る観光バスツアールートの一例】



写真：帯広開発建設部、風のまち「えりも」観光ナビHP、ひろおサンタランドHP
出典：シーニックバイウェイ北海道HP、各バス会社HP、H27全国道路・街路交通情勢調査

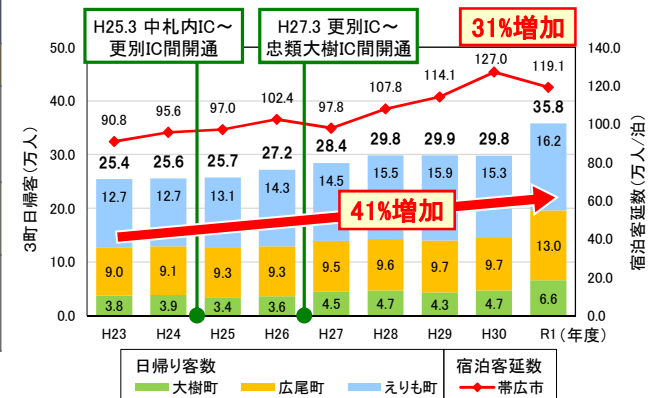
【R1年度 周遊バスツアー全スケジュール】

秋の北海道 メドウガーデンと真鍋庭園・苗畑の美しい紅葉&ドラマの舞台へ (3日間)

日	スケジュール
1	羽田空港(7:15~12:15発) ⇒ 新千歳または帯広空港 → 真鍋庭園 → 十勝ヒルズ → 帯広市内ホテル(泊)
2	帯広 → 紫竹ガーデン → 大森ガーデン → 中札内美術村 → 十勝川温泉(泊)
3	十勝川温泉 → 十勝千年の森 → 福原山荘の紅葉 → 神田日勝記念美術館 → 新千歳または帯広空港 ⇒ 羽田空港(17:10~21:45着)

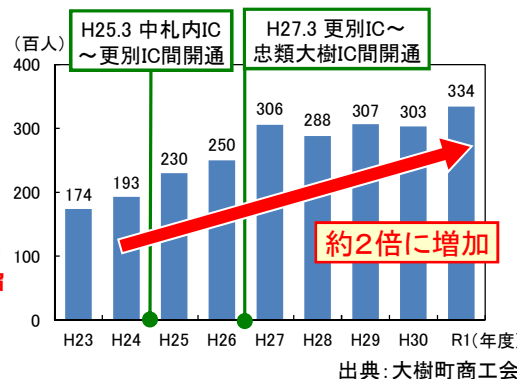
※交通手段：飛行機(⇒)、バス(→)
※赤字は、当該道路並行現道利用区間
出典：バス会社HP

【大樹・広尾・えりも3町の日帰り観光客及び帯広市の宿泊客数の変化】



出典：北海道観光入込客数調査、十勝総合振興局、日高振興局

【道の駅コスモール大樹の来場者数の変化】



出典：大樹町商工会

■地域の声 (R2.8 観光バス運行会社職員)

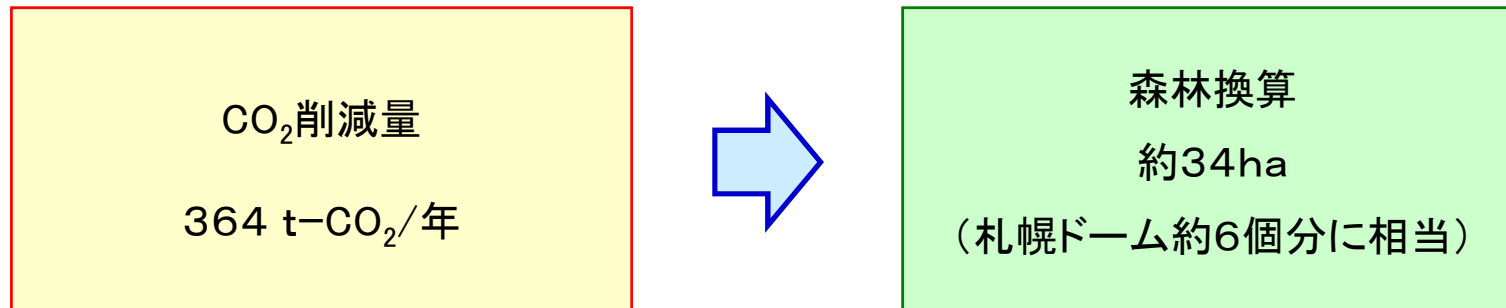
- ・弊社では、広尾方面でのイベントに合わせ貸切バスの日帰りツアーの商品などを販売しています。また、開通後は帯広から日高方面に行きやすくなるため、過去に催行していた旧静内町など桜見学ツアーの復活も期待されます。
- ・これらのツアーでは、スケジュールが守りやすくなるため、また何よりお客様の安全のため高規格道路を利用することにしており、豊似ICが供用された場合は、積極的に利用することになると考えています。

2.事業の必要性等

(2)事業の整備効果(CO₂排出量の削減)

- ・CO₂排出量は、整備なしでは、771,993(t-CO₂/年)
- ・当該道路の整備により、771,629(t-CO₂/年)となり、整備されない場合に比べ、364(t-CO₂/年)の削減が見込まれます。

■CO₂排出量



※対象地域：十勝総合振興局

※令和12年将来交通量推計を基に算出

※森林のCO₂吸収量は10.6 t-CO₂/ha・年として試算

出典：『土地利用、土地利用変化及び林業に関するグッド・プラクティス・ガイダンス(優良手法指針)』

※札幌ドーム面積は建築面積5.5haを使用し換算

2.事業の必要性等

○一体評価区間の考え方



	帯広川西道路 L=17.0km	川西中札内道路 L=19.0km	中札内大樹道路 L=23.2km	大樹広尾道路 (忠類大樹～豊似) L=15.1km	大樹広尾道路 (豊似～広尾)
H27年度 新規採択	○	○	○	○	○
大樹広尾道路 (忠類大樹～豊似)	供用済区間 (H15.3)	供用済区間 (H20.11)	供用済区間 (H27.3)	【評価対象区間】	調査中区間 (ルート・構造確定)
H29.3.15「新規事業採択時評価実施要領細目」の改定					
R2年度 再評価	×	×	×	○	○
大樹広尾道路 (忠類大樹～豊似)	供用済区間 (H15.3)	供用済区間 (H20.11)	供用済区間 (H27.3)	【評価対象区間】	調査中区間 (ルート・構造確定)

○・・・費用便益分析対象、×・・・費用便益分析対象外

2.事業の必要性等

(3)事業の投資効果（費用便益分析 一体評価対象区間_全体）

基本条件

全体事業費	計画交通量(台/日)	基準年
200億円(忠類大樹～豊似)	4,000～5,600	令和2年度

費用便益分析

便益(B)	走行時間短縮便益	走行経費減少便益	交通事故減少便益	総便益	費用便益比(B/C)	経済的 内部収益率 (EIRR)
	361億円	46億円	13億円	420億円		
費用(C)	事業費		維持管理費	総費用	1.1	4.5%
	305億円		81億円	386億円		

感度分析

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比(B/C)
交通量	4,000～5,600	±10%	1.02～1.2
事業費	356億円	±10%	1.02～1.2
事業期間	12年	±1年	1.05～1.1

注1)費用及び便益の合計額は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

注2)便益・費用については、基準年における現在価値化後の値である。

注3)評価対象区間を大樹広尾道路(忠類大樹～豊似)として算出した費用便益比(B/C)【事業全体】0.9

2.事業の必要性等

(3)事業の投資効果（費用便益分析 一体評価対象区間_残事業）

基本条件

全体事業費	計画交通量(台/日)	基準年
200億円(忠類大樹～豊似)	4,000～5,600	令和2年度

費用便益分析

便益(B)	走行時間短縮便益	走行経費減少便益	交通事故減少便益	総便益	費用便益比(B/C)	経済的 内部収益率 (EIRR)
	361億円	46億円	13億円	420億円		
費用(C)	事業費		維持管理費	総費用	1.2	5.2%
	274億円		81億円	354億円		

感度分析

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比(B/C)
交通量	4,000～5,600	±10%	1.1～1.3
事業費	326億円	±10%	1.1～1.3
事業期間	7年	±1年	1.1～1.2

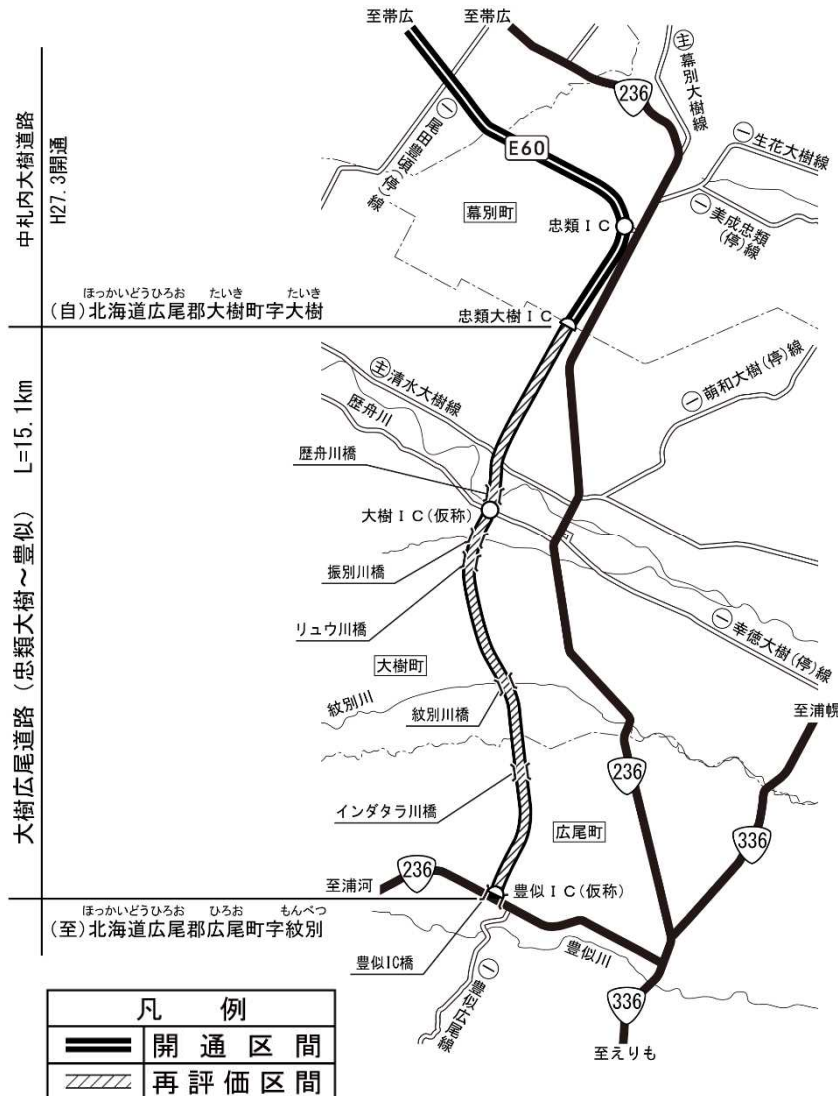
注1)費用及び便益の合計額は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

注2)便益・費用については、基準年における現在価値化後の値である。

注3)評価対象区間を大樹広尾道路(忠類大樹～豊似)として算出した費用便益比(B/C)【残事業】1.1

3.事業進捗の見込み

- ・当該事業は、平成28年度に事業化、平成30年度に用地補償及び工事に着手。
- ・用地進捗率38%(14%)、事業進捗率11%
- ・引き続き、早期開通に向けて事業を進めます。



※用地進捗率及び事業進捗率は、令和2年度北海道における事業計画(R2年4月)ベース
 ※用地進捗率は面積ベース
 ()内は用地補償費投入ベース
 (R2年3月末時点)

4.関係する地方公共団体等の意見

期成会等名称	会長等	主な構成メンバー	要望内容
高規格幹線道路帯広・広尾自動車道早期建設促進期成会	帯広市長	帯広市、音更町、芽室町、中札内村、更別村、大樹町、広尾町、幕別町の首長及び議会議長	食料自給率1240%を誇る十勝は、国内屈指の食料供給基地として、日本の食を支える役割を担っており、十勝港と各産地を結ぶ、より効率的な物流ルートの形成による十勝全体の産業活動活性化や、近年の自然災害や、今後の大規模災害の発生リスクの観点からも災害に強い道路ネットワークを形成するため、高規格幹線道路網の全線早期形成に向け、帯広・広尾自動車道の整備促進を要望。
北海道十勝圏活性化推進期成会	本別町長	帯広市、音更町、士幌町、上士幌町、鹿追町、新得町、清水町、芽室町、中札内村、更別村、大樹町、広尾町、幕別町、池田町、豊頃町、本別町、足寄町、陸別町、浦幌町の首長及び議会議長	十勝圏が国内最大の食料基地としての役割を果たすとともに、将来の十勝圏の発展に向けた社会資本整備を推進するためには、基幹産業である一次産業に関連する基盤整備をはじめ交通・物流・情報の基幹的ネットワークの整備が不可欠である。また、都道府県面積で7番目の岐阜県より広い十勝圏において、高規格幹線道路は、「命を守る道」「命を繋ぐ道」としても重要な役割を果たすものであり、帯広・広尾自動車道の全線早期完成を要望。
東北海道商工会議所連絡協議会	北見商工会議所会頭	釧路市、帯広市、北見市、網走市、根室市、紋別市、遠軽町、美幌町、留辺蘂町の商工会議所会頭	重要港湾十勝港と北海道横断自動車道のアクセスを強化することは、道内一広い面積の十勝地域において産業、経済の振興上きわめて重要な役割を有しており、災害時における緊急輸送、救急搬送など帯広都市圏へ依存する住民生活、シーニックバイウェイ北海道の推進が図られている南十勝における観光の活性化などに必要不可欠なものであるため、帯広・広尾自動車道の整備促進を要望。
帯広商工会議所	帯広商工会議所会頭	帯広商工会議所会頭	十勝地域における地域基幹産業の競争力を高めることで我が国の発展に貢献するとともに、地域医療の格差是正を図り、災害時においても地域の生命線を確実に確保するため、帯広・広尾自動車道の早期整備を要望。

○北海道からの意見

北海道知事からの意見

近隣都市間の連絡機能の強化による地域間交流の拡大や、全国への食料供給を支える十勝港へのアクセス強化による物流の効率化、道路交通の安全性の向上が図られ、経済・社会活動の活性化や道民の安全・安心な暮らしの確保に寄与することから、当該事業の継続について異議はありません。

なお、事業の実施に当たっては、周辺環境への影響を最小限にとどめるとともに、徹底したコスト縮減を図り、引き続き、効率的・効果的な執行に努め、早期供用を図るようお願いいたします。

5.対応方針(案)

- ・大樹広尾道路(忠類大樹～豊似)は、高速ネットワークの拡充による近隣都市間の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び重要港湾十勝港等への物流効率化等の支援に寄与する事業と考えられます。
- ・事業の必要性、重要性に変化はなく、費用対効果等の投資効果も確保されていることから、事業継続と考えています。
- ・引き続き、コスト縮減に取り組むとともに、適正な事業費及び事業期間の管理に努めていきます。

項目	細目	内容	
		事業全体	残事業
費用便益比(B/C)	3便益によるB/C ・走行時間短縮 ・走行経費減少 ・交通事故減少	B/C=1.1 【忠類大樹～豊似】B/C=0.9	B/C=1.2 【忠類大樹～豊似】B/C=1.1
地域の特殊性を考慮した便益の検討	救急医療の改善効果	B=44億円(※)	B=44億円(※)
	余裕時間の短縮による効果	B=14億円(※)	B=14億円(※)
	CO2排出削減による効果	B=0.18億円(※)	B=0.18億円(※)
	便益試算値を考慮したB/C	B/C=1.2(※)	B/C=1.4(※)
事業の整備効果	活力	重要港湾十勝港の利便性向上	・生産地と十勝港の連携が強化され、物流の効率化・利便性の向上が期待される
		宅配サービスの効率化・日常生活の利便性向上	・帯広市との所要時間が短縮し帯広市への1時間カバークラウド人口が増加、また、宅配の契約世帯数の急増に適切に対応する配送体制の効率化と住民生活の利便性向上が期待される
		観光地への移動利便性向上	・移動時間の短縮が図られることで観光の周遊性が向上し、増加傾向にある日帰り観光を支援するなど、観光の活性化が期待される
	暮らし	救急搬送・地域医療の安定性向上	・救急搬送や通院時間が短縮し、救急医療の速達性や地域医療の安定性向上が期待される
	環境	CO2排出量の削減	・自動車からのCO2排出量364(t-CO2/年)の削減が期待される
	その他	道路交通の安全性向上	・並行現道区間からの交通転換が見込まれ、隣接区間同様に死傷事故が減少するなど、道路交通の安全性向上が期待される
事業進捗の見込み	事業の進捗状況	・令和2年3月末時点で、用地進捗率38%、事業進捗率11%	

※は開通後50年間の便益額として試算した参考値